



ねらい

インターネットの特性について学ぶとともに、適切な使い方・付き合い方を身に付ける。誰もがインターネット上で被害者にも加害者にもならないために必要なことを学ぶ。

準備物

- ・ワークシート1・2 各参加者につき1枚
- ・筆記用具 (参加者各自準備)

会場

会場の大きさや参加者数に合わせ、2~5人程度が1グループになるよう机・椅子を配置する。

プログラムの流れ

時間	活動名	活動のねらい	準備物
10分	1. イントロダクション、アイスブレイク	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介とプログラムの説明。 ・研修のねらいについて共通認識をつくる。 ・コミュニケーションをとりやすい雰囲気づくり。 	なし
20分	2. ワークショップ1 「インターネット上のコミュニケーションの失敗事例から学ぶ」	インターネット上のコミュニケーションの特性の理解を深めるとともに、付き合い方について考える。	ワークシート1
25分	3. ワークショップ2 「インターネット上の問題事例から学ぶ」	インターネット上での問題事象とその対応について考える。	ワークシート2
5分	4. まとめ	ワークショップの要点を振り返る。	なし

展開

進め方

留意事項

1 イントロダクション、アイスブレイク

所要時間 10分

●ねらい

- ・研修のねらいについて共通認識をつくる。
- ・コミュニケーションをとりやすい雰囲気をつくる。
- ・インターネットの利用に関して意見交換をし、ワークショップへの導入とする。

① 講師自己紹介

② 研修ルールとして「参加・尊重・守秘」を提案し、研修のねらいを伝える。

「参加・尊重・守秘」の提案は、次を参考にするとよい。

- ・参加……無理をせず、自分のペースで参加する。
- ・尊重……自分の意見も相手の意見も大切にする。
- ・守秘……個人的なことは、この研修だけに留める

進め方

留意事項

③ SNS等でのコミュニケーションが人権に与える影響について簡単な説明をする。

■ 解説のポイント

インターネットやSNSは手軽に情報を入手できるだけでなく、誰でも容易に情報を発信できることから生活に欠かせないものである一方で、特定の個人や団体、不特定多数の人々への誹謗中傷や、差別を助長する有害な情報等が投稿されるなど、人権に関わる問題を発生させる一因ともなっている。

④ グループを作り、参加者同士が自己紹介する。

⑤ 以下のテーマから一つを選び、グループで簡単に意見交換する。最後に各テーマのコメント例を参考に、小まとめを行う。

- ・SNS等で見かけたトラブルや失敗など(実際に自分が体験したことでも可)
「SNS等の利用が一般的になり、トラブルに巻き込まれるリスクも増えている。今回の研修では被害者にも加害者にもならないために、インターネットとの付き合い方を学んでいく必要がある。」
- ・昨日インターネットを見ていた時間(スマートフォンの利用時間)
「インターネットの利用時間は増加傾向にあり、トラブルに巻き込まれるリスクも増えている。今回の研修では、被害者にも加害者にもならないために、インターネットとの付き合い方を学んでいく必要がある。」
- ・携帯電話を使用しはじめた年齢
「携帯電話の使用をはじめた年齢は年代によって違いがあるが、近年はスマートフォンの普及により低年齢化の傾向がある。インターネットの利用においては、誰でもトラブルに巻き込まれるリスクがあるため、インターネットとの付き合い方を学んでいく必要がある。」

・説明には、P1～4の「インターネットと人権侵害」やP19～20「研修にあたっての参考資料」を参考にするとよい。

2 ワークショップ1「インターネット上のコミュニケーションの失敗事例から学ぶ」(ワークシート1)

所要時間 20分

● ねらい

インターネット上のコミュニケーションの特性の理解を深めるとともに、付き合い方について考える。

① ワークショップ1の流れやディスカッションの内容を伝える。(3分)

流れは次の通り。

- ・ワークシート1を読み、設定や考えてもらう内容を確認する。
- ・グループで問1.2についてディスカッションする。

② 問1についてグループディスカッションをする。(6分)

③ 問2についてグループディスカッションをする。(6分)

進め方

留意事項

④ 小まとめを行う。(5分)

- ・このワークショップのまとめとして、次の内容（解説のポイント）を伝え、ワークショップ2につなげる。

■ 解説のポイント

- ・公開されたSNSでは不特定多数の人々が見る可能性がある。
- ・その投稿で傷つく人がいないか、投稿前に一度考えて発信することが必要である。また、相手が芸能人でも同じである。
- ・発信者は特定される可能性があること、場合によっては高額な慰謝料を求められる可能性があることを伝える。会社から懲戒処分等、自らの信用を失墜させ社会的制裁を受けることがあることも併せて伝える。
- ・SNSといったインターネット上で同じものの見方や考え方にだけ触れることや、同じ考えを持つ多くの人から支持されることは偏見を強めることにつながり、誹謗中傷をはじめとする人権侵害のハードルを下げってしまう危険性があることを認識する。
- ・インターネット上で行われたやり取りは、拡散される可能性があり、その書き込みはネット上に残り続ける可能性が高い。そして、それがインターネット上のトラブルによる被害を増幅させる可能性があることを紹介し、ワークショップ2につなげる。

3 ワorkshop2 「インターネット上の問題事例から学ぶ」(ワークシート2)

所要時間 25分

● ねらい

SNSでよくあるトラブル事例についてディスカッションすることで、被害者にも加害者にもならないために各個人が注意すべき点を身に付ける。

① ワorkshop2の導入を行う。伝える内容は次の通り。(1分)

- ・ワークショップ1では、SNS上での投稿が拡散されることで、相手を傷つけ、大きなトラブルにつながることも、また、誹謗中傷を行ってしまった際に投稿者が受ける社会的制裁についても学んだ。
- ・ワークショップ2では、インターネット上のSNS等でのやり取りの中で起こりやすいトラブルを題材に、インターネットの特性について学ぶ。

② ワークシート2の内容を読み上げ、流れを説明する。(2分)

流れは次の通り。

1. 進行役が各グループに考えてもらう事例を指定する。
2. 各問いについてグループごとにディスカッションする。
3. ディスカッションした内容を全体で共有する。

③ 各グループに考えてもらう事例を指定する。(1分)

④ 事例分析(10分)

- ・指定された事例の問1について、ディスカッションする。(5分)
- ・問2についてディスカッションする。(5分)

- ・事例の紹介は、「ネット上の様々なトラブル、問題事象」程度とする。各事例が該当するトラブルを伝えることで、次の事例分析の先取りとしないようにする。
- ・事例を指定する際は、事例の偏りがないようにする。

進め方

留意事項

⑤ グループでディスカッションした内容を全体で共有する。(7分)

・進行役が、ディスカッションの内容を3~4グループ程度インタビューする。

⑥ 進行役が各事例の問題点を整理する。(4分)

問題点の解説のポイントは次の通り。

■ 解説のポイント

事例A) 誤った情報を拡散したこと。

情報源が知人であったとしても、情報の正確性についての確認が必要であること。その確認をせずに、安易に拡散してしまうことで、自身がフェイクニュースの拡散に加担する側になる。

フェイクニュースの方が普通のニュースよりも拡散スピードが速く、フェイクニュースには誰もが騙される可能性があることを認識する。

見聞きした情報を不特定多数の人々に向けて投稿する際は、その情報が信頼できる情報源から得られたものか確認し、真偽が分からない場合は、安易に投稿しないように注意する。

事例B) 本人の許可なく顔写真を投稿したこと。

許可なく他人の顔写真をインターネットに掲載することは、肖像権の侵害にあたること。また、掲載を取り消してほしいという申し出を無視すると、訴えられる可能性がある。いったんインターネット上に掲載した情報は、拡散される可能性もあり、完全に消し去ることは難しい。

他者のプライバシーに関わる内容を含む投稿をする人は、勝手に判断せずに必ず相手の許可を得ること、また、掲載の許可をもらっていても相手を危険にさらすことがないかについて注意することが必要。

事例C) アップロードした動画が店に与える損害を予測できなかったこと。

本人は冗談のつもりでもインターネットに公開することで拡散され、店の営業に多くの損害(被害)を発生させ、多額な損害賠償請求や刑事事件として罪に問われる可能性がある。他にも、動画を投稿せずとも、撮影を手伝うことで罰せられる可能性がある。拡散された情報は、容易に無くならず、残ってしまうことからインターネットの持つ危険性(記録性、拡散性)を理解することが大切。

・グループディスカッションの時間管理は進行役が行う。

・後で、発表をしてもらうことも伝えておく。

・議論の進捗を見ながら、進んでいないようなら以下のようなポイントで考えてみるよう助言する。

事例A) 偽の情報をなぜ信じてしまったのか。

事例B) ユーザーBがなぜ聞き入れないのか。

事例C) なぜ大騒ぎになったのか。

・事例発表は1事例につき、1グループとし、進行役が発表するグループを指定する。

・発表へのコメントとして、ワークショップ2のねらいを活用してもよい。

4 まとめ

所要時間 5分

ワークショップの要点を振り返る。振り返りのポイントは次の通り。

■ 振り返りのポイント

- ・インターネット上で他者を尊重すること、同時に自分自身も守ることについて、本ワークショップを振り返りながら考える。
- ・インターネット上で加害行為を行ってしまった場合、軽い気持ちで行ったことであっても、刑罰や損害賠償請求等の法的責任を問われたり、社会的制裁を受ける可能性がある。
- ・こういったことを防ぐためにも、インターネット上のコミュニケーションの特性を理解し、適切な付き合い方を身に付ける必要がある。